

工業会活動

ICCAIAの春期ボード及び総会報告

ICCAIAの春期ボード及び総会は世界的な新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、前回（昨年9月）に続きリモート方式で2021年3月24日に開催された。SJACからは専務理事と小職が参加したので、その内容につき以下報告する。

1. ボードについて

今回のボードは、ICCAIA加盟の6団体（ASD-欧州、AIA-米国、AIAC-カナダ、AIAB-ブラジル、UAI-ロシア、SJAC-日本）に加え、オブザーバーとしてメキシコ、シンガポール、マレーシア、南アフリカの各団体が参加して始まった。以下、アジェンダ順に概略を報告する。

ITEM1 オープニング

今回のボードよりASD（欧州）専務理事のJan Pie氏が議長を務めた。（同氏のICCAIA議長としての任期は2021年1月より2年間である。）

ITEM2 前回（2020年9月）のボード議事録の承認

議事録は承認された。内容は、各委員会のCharter（規約）の承認、新型コロナウイルスに対応するICAOの活動報告、新規メンバーの募集状況、ATAG（Air Transport Action Group）への参加についての情報等である。

ITEM3 Five Year Strategy Document（5年間の戦略）の承認

約2年前のICCAIAボードで承認したFive Year Strategy Document（5年間の戦略）に最近の動向（新型コロナウイルス関連）等を追記した。この機会に概要を紹介する。

Strategic Object1 新型コロナウイルス（COVID19）対応（新設）

新型コロナウイルス（COVID19）の影響から早期の国際的民間航空の再開のため、ICCAIAのICAOへの戦略対応と各種団体（IATA等）との連携。

Strategic Object2 ICAOでのICCAIAの役割

ICCAIAのICAOでの役割を更に強化していくことを記載。具体的内容は、ICAOの理事会等への参加の増加、新たな協議体による産業界とICAOの関係強化、ICAOイベントへのスポンサーとしての参加、ICCAIAのメンバーの増強等である。

Strategic Object3 CNS/ATM（通信・航空管制）関連

従来からのICAO活動の協力や、航空機のこの分野で技術的な能力拡大に貢献することに加え、電波周波数の割り当てに関してITU（国際電気通信連合）との連携を追記。

Strategic Object4 Aviation Safety（航空安全）関連

従来からのICAOでの航空安全の活動、ICAOが取り纏めるGlobal Air Navigation PlanとGlobal Aviation Security Planへの協力に加え、Cybersecurity分野でのICAOへの協力を追記。

Strategy Object5 Emerging Technology（新興技術）関連

従来からのEmerging Technology（新興技術）をICCAIAの活動範囲とし、彼らをICAOの標準化活動への巻き込みを図ることに加え、AI（Artificial Intelligence）利用の考え方（Safety、Risk Baseとする等）を追記。

Strategy Object 6 環境関連

従来からの適切な技術情報等の提供やステークホルダー（各国、学会、NGO等）との関係構築に加え、CO2削減や代替燃料の技術開発、CORSIAの支持などを追記。

Strategy Object 7 法規制への対応

従来からのICAOでの環境関連規制への対応に加え、Supersonic／超音速への対応を追記。

Supporting Strategy 補足

ICCAIAのS/C Charter（ストラテジー委員会規約）の言及、NGAP（Next Generation Aviation Professional／次世代人材の育成）、航空機を使った森林火災消化活動、ATAGとの連携等を追記。

ITEM4 メンバーの会費支払いについて

年会費支払いの二分割を求めるメンバーがあり、ICCAIAの規約に沿ってボードの承認が求められ、了承された。

ITEM5 J/V（Joint Venture）Policyの承認

ICAO駐在員より今回Policy（ガイドライ）が作成されることになった理由は、GEとAVIC（中国航空工業集団）のJ/Vに所属するエンジニアから、ICCAIA技術委員会への参加申し込みが昨年あり、この機会にJ/V所属者の技術委員会への参加ルールを作成することになったとの背景説明が行われた。J/V出資比率、主要拠点の所在地、加盟工業会経由の申請等の手続き／判断基準を設ける等の内容のガイドラインが、ボードにより承認された。

ITEM6 ICCAIAのICAO駐在員 FOX氏後任選定

Fox氏がリタイヤすることとなり、後任者の採用活動を行ってきた結果、6月ごろをめぐりに後任者がICCAIAのICAO駐在員に就任することになったとの報告があり、了承された。（現在のICAO駐在員のDan氏と2名体制となる。）

ITEM7 ‘Associate Member’（新規メンバー）関連

AAIS（シンガポール）、FEMIA（メキシコ）、AMD（南ア）、MAIA（マレーシア）が新規のAssociate Memberとなった。年会費は、5,000米ドルとし、Associate Memberの期間は本年5月より2年間とした。各工業会の正式名称は以下である。



AAIS : Association of Aerospace Industries (Singapore)



FEMIA : Federacion Mexicana De La Industria Aeroespacial, A.C.



AMD : South African Aerospace Maritime & Defence Industry Associations



MAIA : Malaysia Aerospace Industry Association

ITEM8 新型コロナウイルス (COVID19) 対応状況報告 (ICAO活動を含めて)

CART活動はPHASE3の報告書を纏める予定とのこと。COVID19 Test Resultの標準化 (COVIDパスポートとも言われているもの)、Air Crewへの優先的なワクチン接種などが議論されている。本年の10月12日から22日にハイレベルによるICAO会議が予定されており、産業界としての関与方法が課題との報告がICAO駐在員より行われた。

(注 : CART : Council Aviation Recovery Task-force、ICAOが中心のCOVID19対策の他機関とも連携したタスクフォース)

ITEM9 ICAOとの関係の状況報告

“Industrial Consultative Body” のキーワードで今まで検討されてきた、産業界幹部とICAO幹部との会合がICF (Industry Consultative Forum) という名称で実施される方向との報告がICAO駐在員より行われた。実現に向けての課題は、ICFの目的が“Horizon Scanning (領域の調査)” とあり、この言葉の定義が“Technology Horizon (技術領域)” なのか“Regulatory Horizon (規制領域)” な

のかが不明なため調査が必要なこと、ICAOがInnovators (イノベーター) を直接招待する可能性があること、本年6月にこのICFが行われる可能性があり準備時間が短いこと等の報告がICAO駐在員より行われた。

ITEM10 その他

Airworthiness Committee (A/W) の議長・副議長・ICAO Panelの人選経緯について報告及び承認が求められ、了承された。議長ポストがAIAの連続となるためA/Wの規約から逸脱するものであり、ボードの承認が求められたもの。

以上をもって、予定議事は終わり、ボードは終了となった。

2. Annual General Meeting (AGM/総会) について

冒頭でICAO Council (理事会) President (議長) Salvatore Sciacchitano氏のスピーチ (30分) が行われた。



(スピーチ要旨) ICCAIAのCARTでの極めて重要な役割を認めるとともに、回復力を備えた民間航空システムを構築するために、CARTで定めたガイダンスの実施が望まれる。イノベーションの導入、そのICAOでの標準化や推奨案 (Recommended Practices) への反映に産業界の重要な役割を認めるとともに、ICAOと産業界の対話は重要性であり、新たに作られるICF (Industry Innovation Forum) を楽しみにしている。ICAOと産業界の重要な役割はCO2削減であり、CORSIAへのコミットメントである。ICAOは新型コロナウイルスのCORSIAへの影響の反映をおこなってきており、関連するLTAG (Long Term Aspirational Goals) の提案が2022年までに纏めることを期待する。

ICAO理事会議長のスピーチに続き、総会が開催された。アジェンダに沿って報告する。

Item1 総会の開始 (定足数の確認) とアジェンダの承認

参加者の確認 (出欠) を行い定足数が満たされることが確認され、アジェンダが承認された。

Item2 前回 (2020/4/30開催) の総会議事録の承認

承認された。内容は新型コロナウイルス (COVID19) のICAO対応、ICCAIAの会計報告、ICCAIA各技術委員会の年次報告である。

Item3 ICCAIAの会計報告

監査済の2020年8月版の会計報告が財務担当VPのMike Muller氏 (AIAC/カナダ専務理事) より行われ、承認された。

Item4 会計事務所選定

同じく、財務担当VPよりKelly Huibers McNeely (カナダ・オンタリオの会計事務所) をICCAIAの会計事務所候補に選定したことが報告され、承認された。

Item5 Resolution of the Members (参加者決議)

6及び7項の決議に先立ち、ICCAIAの規約が準拠するカナダ ケベック州法に沿って、総会の定足数が満たされていることを確認し、総会が成立していることを決議した。

Item6 ICCAIAのBy-Lawの承認

既にボードメンバーにより承認されている、ICCAIAのBy-Law (規約) を承認した。

Item7 ボードメンバーの承認

ICCAIAボード副議長の承認を行った。議長はJan Pie氏 (ASD/欧州)、副議長はMike Mueller氏 (AIAC/カナダ、財務担当) とLiudmila Rostovtseva氏 (UAI/ロシア、AIAB (ブラジル)、SJACで1年毎の持ち回り) となった。

Item8 各技術委員会からの報告 (要旨)

①Airworthiness (耐空性) 委員会

ICAOでの新型コロナウイルス (COVID19)

対応（CART）活動支援のためにワーキンググループを作り、検討・提案を行った。25HR（25時間）対応のCVR（Cockpit Voice Recorder）の導入が2021年1月から2022年1月へ延期されている。毎年、FAA/EASAとの合同会議に合わせて開催している全体会議は新型コロナウイルスの影響で2020年度は中止となっている。

②ANEC（Aircraft Noise and Engine Emission - 騒音・燃焼）委員会

総会（2022年9月）に向けてICAOで進められているLTAG（Long Term Aspirational Goals）の取り纏め活動への参加が大きな活動となっている。総会へ提案するにはCAEP会議（Committee on Aviation Environmental Protection／来年2月開催予定）で討議する必要があり、COVID19対応に人材が割かれており大変厳しいスケジュールとなっている。Supersonic（超音速）／Subsonic（亜音速）機の騒音・燃焼面での基準作りの検討も継続している。グループ1（騒音）、グループ2（空港・運航）、グループ3（燃焼）、グループ4（CORSIA：Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation）に分かれて活動している。

③CSN/ATM（Communication, Navigation and Surveillance/Air Traffic Management-通信／管制）委員会

この分野でのトレンドは、無人機の空域利用、航空（Aviation）の効率化と低炭素化、航空のデジタル化である。具体的な取組みは無線周波数スペクトルの干渉、5Gの航空周波数領域への適用、新旧の空域利用者間でのデータのやり取り等の対応となる。そのため、5G対応のAd Hocグループ立上げている。

④Security（セキュリティー）委員会

ICAOでサイバーセキュリティを扱う組織体の検討が進められており、ここにおいて産業界の意見が反映できるように働きかけている。AVSEC（Aviation Security）が2020年12月にリモート形式で開催されたが、Physical Security（空港セキュリティー設備等）の議題が中心であった。ICCAIA Security委員会でもPhysical Securityのサブチームを設けて今後検討していく。Global Resilient Aviation Information Network（世界的に回復力のある航空情報網）を目指して委員会活動を行っていく。そして、IATA（国際航空輸送協会）との連携／情報交換を開始した。

議長のJan氏より、総会メンバーへの謝意が述べられるとともに、前議長のEric Fanning氏（AIA／米国）に対して任期中のICCAIA活動への功績と謝意が述べられ、総会は終了した。

所感

コロナ禍で民間航空機産業は大変厳しい状況にあるが、ICAOではコロナ禍への対応（CART）だけでなく、各技術委員会からの年次報告からも見て取れるように、来年（2022年9月）に開催予定のICAO総会に向けてコロナ禍からの回復時を見越した様々な取組みが行われている。これらの動向をICCAIAでの活動を通じて情報収集に努め、展開していきたい。

また、今回のボードを経てICCAIAの参加者が拡大している。アジア地区からはマレーシアとシンガポールが新たに参加となった。アジア地区での連携・交流を今まで以上に進めていきたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実〕